



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	補習授業校の子どもたち：平成15年度在外教育施設巡回指導(北米班西地区)報告
Author(s)	赤荻, 顕子
Citation	研究紀要/東京学芸大学教育学部附属竹早中学校(42): 23-33
Issue Date	2003
URL	http://hdl.handle.net/2309/6227
Publisher	
Rights	

補習授業校の子どもたち

平成15年度在外教育施設巡回指導(北米班西地区)報告

赤荻 顕子

国語科

要 約

平成15年9月26日～10月6日の11日間平成15年度在外教育施設巡回指導北米班(西地区)の一員として、カナダのカルガリー・バンクーバー、アメリカ合衆国のサンフランシスコ・サクラメントの4都市を訪れた。4校の補習授業校の実情に触れ、2校で授業を行ったことについての報告である。

キーワード 在外教育施設巡回指導 補習授業校 帰国子女教育

1 巡回指導の概要

在外教育施設巡回指導班派遣実施要領^{注1}により、以下に記す。

1 目的

派遣教員のいない補習授業校における教育の水準の向上を図るため、当校に対し、文部科学省から、教育上の指導、助言等を行う巡回指導班を派遣し、海外子女教育の充実に資するものとする。

2 活動内容

あらかじめ定められた巡回日程に従い、主として次の活動に従事する。

- (1) 補習授業校の教育上の課題に関し、指導、助言すること。
- (2) 補習授業校の学校運営状況に関し、実態を把握等すること。
- (3) 国内の教育の現状(進路情報を含む。)に関し、情報提供すること。

3 補習授業校に対する指導、助言等の内容

派遣先の補習授業校等の希望に基づき、次の指導、助言を行う。

- (1) 巡回指導班による模範授業の実施及びその後の当該授業に関する授業研究
- (2) 派遣先の補習授業校等の講師が行っている授業の参観及びその後の巡回指導班による当該授業に関する授業研究

(3) 学校関係者(学校運営委員会、教職員、保護者等)との意見交換

(4) 教育活動等に関する相談

4 派遣期間、派遣先

巡回指導班の派遣期間はおおむね10日間であり、また各補習授業校等への滞在は1日程度である。

派遣先は、派遣教員のいない補習授業校だけでなく、日本人学校及び派遣教員のいる補習授業校への視察も含む。

5 15年度実施概要

(1) 期間

平成15年9月26日～10月6日の11日間。

(2) 派遣先

カナダのカルガリー・バンクーバー、アメリカ合衆国のサンフランシスコ・サクラメントの4都市を訪れた。

(3) 指導、助言内容

カルガリー補習授業校とポート・オブ・サクラメント補習授業校については、I-3(1)～(4)を、バンクーバー補習授業校とサンフランシスコ補習授業校については、I-3(3)(4)を行った。

(4) 模範授業の実施

① カルガリー補習授業校

中学校2年生6名対象。

教科書教材光村図書『字のないはがき』を2時間扱いで2時間目の設定で授業を展開した。

②ポート・オブ・サクラメント補習授業校

小学校5年生4名，小学校6年生4名，中学校1年生7名，中学校2年生5名，中学校3年生4名，高校2年生2名の計26名対象。

「国語を学ぶ楽しさを味わう」として特設単元を設定し，漢字の成立，まどみちお『かざぐるま』の朗読，国語を学ぶ楽しさについての授業を展開した。

II 巡回指導報告

1 模範授業の効果及び課題等

実際に授業を参観することで，授業の手法，子どもの反応等が伝わりやすいという大きなメリットがある。しかし，特別に設定された授業であるため，授業の事前に念入りに教材に取り組んだり，事前の指導が校外で負担になるところもまたある。

その一方で，子どもにとっては通常とは違うタイプの授業形態を経験することで，よい刺激となる。教材に向き合う動機付けとなったり，白紙の人間関係の中で活躍の場を得ることもある。

全校で参観する事が望ましいのだが，実現が困難であることが課題である。セキュリティ上の問題で，全教員が同じ授業を参観することが難しいことや，授業のない子どもたちを自習させなければならないといった問題もある。

2 模範授業後の当該授業に係る授業研究の効果及び課題等

模範授業後，引き続き授業検討会に入ることが望ましいが，通常の授業があるため，授業検討や討議が短時間にならざるをえないことは，大きなデメリットである。また，授業後は，校舎を借用しており，その契約関係から時間が限られることもあわせて課題である。

また，場所をどこかに移して行なうにしても，現地採用の教員の契約時間外で行なうこととなり，時間の確保が困難である。現状では，わずかな時間であっても全員で参観し，それを踏まえての意見交換会を行っているが，これは効果が大きい。今後，授業研究の時間が確保され，授業内容について細かく

分析し，できるだけフリートークのできる時間が確保されるとよいと思われる。

3 訪問校講師が行っている授業の参観及びその後の当該授業に係る授業研究について

(1)訪問校講師が行っている授業の参観の効果及び課題等

①模範授業の前後に位置づけられるが，それぞれに効果的である。

模範授業前に参観できると，事前に，実際に子どもの反応を見ることができ，授業へ生かせる。

模範授業後に参観できると，子どものことがある程度見えて，それを踏まえた参観や，支援ができる。

②施設のみを見るのではなく，子どもと教師の日常が見られることに意義がある。例えば，校舎を借りているために，黒板が自由に使えずホワイトボードで覆って書いてみたり，小さいホワイトボードを置いて授業を進めたりしているといった，現状を把握できる。また，教室環境の掲示物なども，個々の教員の工夫が見られる。

4 授業参観後の当該授業に係る授業研究の効果及び課題等

意見交換会の中で，質疑応答からの発展的な話として行われたが，もっと時間を設定していくと効果が見込まれる。しかし，この短い時間設定の中でも，現地教員の不安や悩みを客観的に分析でき，お互いに意見交換の場となることで，解決の糸口となった。教員個々が抱え込んでいた課題を外へ出すことがまず有効なのだと考えられる。

5 学校関係者（学校運営委員会，教職員，保護者等）との意見交換

(1)学校運営委員会

①在留企業が年々減少しており，運営に支障をきたしてきている。

②学習要領の改訂に伴って，日本の状況はどう変化していったのか，週休2日の実際についてもどのようなものなのか心配である。

③日本に於いて，学力格差，躰の格差はどう考えられているのかという質問に対して，学力格差に関し

ては、習熟度別など模索中であり、期間を設けて、年に何回か試行されたりといった状況であると回答。躰の格差については、基本は家庭であり、保護者を指導することもあると回答。

(2) 校長（教職員）

① 派遣教官の要請

- ・現在派遣教官のいないところは切望している。
- ・高等部が設置されているところは、中学校国語の免許取得者に特に来て欲しい。
- ・現地採用者のほとんどが女性であることから、巡回指導等でも特に女性の派遣を考えて欲しい。

② 施設の問題

- ・借用している校舎が中学校のため、小学校低学年については机椅子共に高過ぎる。
- ・教室によっては、板書を消さないようにという現地校の教師によるメモがあり、黒板が使用できず、ホワイトボードで対応している。
- ・種々様々な問題はあっても、校舎を貸してくれる現地の学校が少ないこともあって、よく対応してくれていると考えているようだ。

③ 図書室

- ・子どもたちの関心は高く、昼休みに読書する姿もよく見られるという。
- ・カルガリー補習授業校では、地下室の一角にあり、蔵書およそ1000冊。しかし、寄贈が中心で、そのほとんどが読み物で資料用の図鑑などがほとんどない。
- ・バンクーバー補習授業校では、校長室に隣接した事務室のスペースに書架が置かれていて、そこで図書の貸し出しを行っている。
- ・サンフランシスコ補習授業校（中学校）では、蔵書およそ2000冊くらいで、バーコードを導入し、貸出業務は保護者が行っている。
- ・ポート・オブ・サクラメント補習授業校では、3～4のロッカーに分割収納している。登校時に、ロッカーから部屋に出し、子どもが下校すると、もののロッカーへ保護者が片づける。

蔵書内容は読み物がやや多いが、保護者と教員が

協力して保護者主催の古本市を行うなど、よく本を選定している。

④ 授業の実際について

- ・実験なども行えなくても理科の授業は必要か（知識よりも理科的社会的思考を育てる方がよいのか）、自由研究や夏休みの宿題の内容、子どもたちが授業中大きい声が出ない、男子生徒の読書習慣の定着が困難であるなど、様々なレベルの疑問や悩みが出された。そこで、副教材、ワーク集などを資料として渡した。また、あわせて海外からの入手方法についても紹介した。

⑤ 言語環境について

- ・外国人子女の言語環境についてどうしていけばよいか。
- ・日本語を発音するときに子音が強く出てしまう、幼児語を話す子どもたちをどんな段階を踏んで矯正していけばよいのか。

⑥ 領事館等、補習校の必要性への疑問

領事や公使の家庭からは補習校の必要性を否定されることが多いが、どう対処すべきなのか。

⑦ カリキュラム等具体的な取り組み例（サンフランシスコ補習授業校）

- ・試行として、小学校低学年に午後1:10～授業（学級会など）を行い、2:00下校とする「4H」を行っている。
- ・精選と重点化、個への対応（語学と学力の4つの組み合わせ）として、課題別学習、学年対応を行っている。
- ・教育相談は、保護者と生徒の関係も含めて、中高等部で特に行っている。
- ・校内研究は、安全面から、全員が一つの授業を見る体制は不可能であるため、空き時間に見に行くようにしている。少しでも多く見たいが、6時間のうち、高学年の担任は4～5時間を持つ。低学年の担任は、専科も持つ。空き時間には、学年会や教科会が入るので、年に1回は全員が授業公開を行うということで、教科と学年と隔年で行い、授業公開の指導案へコメントを記入して各自へ返却する、といっ

た形で行っている。

⑧保護者のニーズの多様化

・塾、予備校、私学の増加で、中抜け（登校し、途中で塾へ行き、午後戻ってくる）する生徒も多い。

・子どもが英語に適應すると、家庭内でも言語が英語になってしまうといった言葉に対する保護者の認識の違いがある。

・もともとは、帰国後のソフトランディングのために、日本語力の維持や異文化の中での帰属意識を持たせるといったことであったが、長期滞在者と帰国生の保護者の意識のズレが補習校の理念のズレへつながってきている。

・子どもの原点は現地校であり、補習校のどこによりどこを求めるのかという、補習校の存在意義が揺れている。また、異文化の中でのアイデンティティを維持するため、永住者や、外国籍の子どもたちの入学が増加している。

⑨日本の教育関係の情報不足

学習関係、日本の教育状況、日本の学校の入試関係、受け入れ態勢などについて情報が絶対的に不足している。そこで、帰国生徒の受け入れ校である本校の学校要覧、学校案内を資料として渡した。

(3)保護者

①帰国後の不安

・受け入れ校についての情報と、公立学校及び私立学校の帰国生徒にとっての環境についての情報を得たい。

・海外でしておくべきことと、帰国後へ備えておくべきことは何か。

・日本を知らない子どもたちが帰国後適應できるのか不安である。

・親子で、帰国を控えての追い込みや焦りがある。

②親子の葛藤

日常を英語で過ごすようになる子どもたちに対して、親の都合で連れ回し、何度も適應の苦勞をさせることへの引け目から、日本語学習への動機付けができにくい状況もある。

そこで、本校の帰国生委員会による紀要抄本（過去

3年分）を資料として渡した。

4. 訪問校へのアドバイス

・共通部分：向学心にあふれ、健やかな心を持った優秀な子どもたちと出会えたことにまず感謝したいと思います。また、異文化の中で真摯に教育に打ち込まれている先生方、全力で学校を支えていらっしゃる保護者の皆様に心から敬意を表したいと思います。日本語が絶対的に少ない環境下に於いては、読む、書くが基本になります。そのためにも、声を出して読み、考えたことや事実を書くことは大切です。そのことばを増やすためには、日本語の環境を保證することと、読書の有効性はいうまでもありません。子どもたちには、きっかけの部分での提示に工夫することが必要ですが、その後は、継続できるようにサポートしていれば力がつきます。私で何かお役に立てることがあれば、お知らせしたアドレスにご連絡ください。

・カルガリー：教科書も一律に進めるのではなく、年間計画を立案する段階で方策を検討されるとよいですし、進めながら子どもの実態に合わせて変更されてもよいと思います。

・ポート・オブ・サクラメント：教室掲示も充実されていましたが、授業への取り組みも輝いていました。授業を指導案に起こして再検討するといった振り返りを行うことも次の授業へつながります。

5 視察校について

(1)教育活動の状況

①オープンハウス

・補習授業校を理解してもらうため、日本文化の紹介の意味も併せて現地校の教員（校長・在籍者の担任）を招待している。日本語への関心が高いこともあって、逆にこちらがサポートできることはないか投げかけている。（たとえば、日本語の講座への協力など）だが実際には、隣接校の視察程度の交流にとどまっている。

②安全面（バンクーバー）

・トイレへは3人以上で行くように指導し、午前8時～午後4時半までガードマンがおり、IDカード

を提示しなければ入校できないようになっている

③集中講義（サンフランシスコ）

・入学体験学習を兼ねており、出席率はよい。子どもにとっても、全日制もどきの体験ができる。

教員は、点（土曜のみ）の子どもを線（1週間）で見るよい機会でもある。

(2)学校運営委員会との関係

・きめ細かな指導がされており、大学の進学先もよく、理事は協力的で、教員も生徒も優秀。ただ、情報が不足している。（ポート・オブ・サクラメント）

・保護者全員が在学中に持ち回りで学校運営に関わる規模であることも好ましく、ファミリー感覚でトラブルはない。（カルガリー）

・組織として伝統がある分、発足当時の寺子屋意識がまだあり、派遣教員・新採用教員とのやりとりの中で難しいところもある。（バンクーバー）

・保護者も理事も熱意は高く、加えて、躰も行おうと考えている。（サンフランシスコ）

(3)その他要望など

・教員の採用について（退職、書写、高等部の存続問題）

・幼稚園から高校まで、一貫して考えてもらえないか。どうせ設置するのならば、責任能力のある者が管理者となるべきであるし、カバーできる範囲でかまわないので、もう少し柔軟に考えて欲しい。

・教員の研修の機会を充実させて欲しい。文科省に何らかの形で援助してほしい。

・補習授業校へ赴任する前に、赴任先の情報を得られるようなプログラムがほしい。

・同一地区で複数校ある場合、今後も校長が1校に張り付きにならないようにしてほしい。

・派遣教員の滞在期間は、3年では短い。

1年～見る～2年～環境整備・課題発見～3年～路線確立～4年～実施程度で考えられないか。

・物価も高く、住宅環境も悪化しているのに諸手当の減額は厳しい。その土地土地で事情があるので、考慮して欲しい。

・教科書配布について、永住者についても配慮でき

ないか。

III 終わりに

補習授業校の実情は、百聞は一見に如かず、という感じであった。授業を通して出会った子どもたちは、日本から来て日の浅い子から、その土地生まれの子まで様々だったが、協力的で素直で元気でノリがよく、力のある人たちであった。また、先生方は異文化の中で誠実かつ真剣に教育に取り組まれており、保護者の方々は、現地でパワフルに活躍されながら、子どもたちのために学校へ惜しみない協力をされている。そこでは総じて、子どもたちは伸びやかで純朴であり、教員と保護者は一致団結して異国文化の中で教育に全力を注いでいる姿があった。

本校は受け入れ校であり、今後も帰国生徒に関する業務、研究に携わる者として、なくてはならない体験であったと思う。今回、現地の実情の一端に触れ、他の地域についてもおそらく同様の悩みを抱えていることが推察された。補習授業校の是非も課題も少なくないが、とくに派遣教官がいなかったり、教員の経験値が低いところは深刻な問題であると感じた。今回の巡回で私の果たせた役割は微々たるものであったとは思いますが、現地で生活し学ぶ人々に、何かしてあげたいという思いで帰国した。

お役に立てたことよりもお世話になることの多かった滞在であったと思うが、今後、海外で生きる子どもたちにできることを探していきたいと考えようになった。また、本校生徒の補習授業校経験者への視点が変わったことも収穫だったと思う。

注1)事前の打ち合わせ時に配布されたもので、参考文献1)をもとにした初等中等教育局国際教育課が作成した資料。

引用・参考文献

1)文部科学省教育助成局：在外教育施設巡回指導班派遣実施要領：2001.

- 2) 文部科学省初等中等教育局国際教育課：海外で学ぶ日本の子どもたち：2003.
- 3) 文部科学省初等中等教育局国際教育課：補習授業校における教育の充実方策について，海外子女教育に関する調査研究会報告04/03/03：1992.
- 4) 文部科学省初等中等教育局国際教育課：補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集：2003.
- 5) 東京学芸大学教育学部附属大泉中学校：海外でどう学ぶか：2000.
- 6) 文部科学省初等中等教育局国際教育課：補習授業校のための指導計画作成資料国語指導案集／算数(数学)指導案集(C D R)：2001.

平成15年9月27日（土）於：カルガリー補習校

東京学芸大学教育学部附属竹早中学校 赤荻顕子

字のないはがき（2/2）本時（中学2年、6名）

（一）文章を通して、人間、社会、平和などについて考えられること。

（二）表現の工夫や文章構成など作品の特徴に気づいて、自分の感想を深められること。

	学習活動	指導言・板書事項	留意事項
	<p>1 作品の構成をとらえる</p> <p>2 ①について父親の性格や日常を理解する</p> <p>3 ②について家族の状況と心情を理解する</p> <p>4 作者の描く父親像を通して作品への感想を深める</p> <p>5 感想を書く（発表する）</p> <p>6 読書紹介「ごはん」</p>	<p>■この作品で中心に書かれていたのは誰でしたか。</p> <p>■この作品を大きく2つに分けると①邦子が女学校1年の時②終戦の年に分かれます。</p> <p>■①の中でお父さんについてわかるところを探しましょう。</p> <p>◇筆まめ…どういうところからわかるか。</p> <p>■どんな手紙か。</p> <p>■手紙の中での父親はどのような父親ですか。</p> <p>■お父さんの日常と色分けをしてみよう。</p> <p>■邦子はお父さんに対してどう思っていたのでしょうか。</p> <p>□下の妹への両親の気持ちがわかるところを探しましょう。</p> <p>□②のはがきを書いてみよう。（4枚分）</p> <p>□下の妹が帰ってくる時の家族の気持ちがわかるところを整理しよう。</p> <p>■お父さんはどんな人だったのか考えてみよう。</p>	<p>・2つのエピソードがあることを確認させる。</p> <p>・筆まめからスタートして、手紙の中と日常とに分けて整理させる。</p> <p>・数分、時間を取る。</p> <p>・てれ性、気恥ずかしいなどのことばに着目させる。</p> <p>・かわいがっていたというところを押さえさせること。</p> <p>・実際に書かせることで、状況が実感される。</p> <p>・父親だけでなく、邦子と弟の行動にも気づかせる。</p> <p>・欠点を内包し、厳しい生活の中ではあるが、深い愛情を抱き合った家族であることを理解する。</p>

〔評価〕 （一）文章を通して、人間、社会、平和などについて考えられたか。

（二）表現の工夫や文章構成など作品の特徴に気づいて、自分の感想を深めたか。

* 参考文献6)の様式で作成。

平成15年10月4日（土）於：ポート・オブ・サクラメント補習校

東京学芸大学教育学部附属竹早中学校 赤荻顕子

国語を学ぶ楽しさを味わう（1/1）本時（小学5年、6年、中学1～3年、高校2年）

（一）漢字と遊び、楽しく朗読することで国語を学ぶ楽しさを味わう。

（二）ことばを学ぶ意義から日本語を学ぶ意義について確認する。

	学習活動	指導上の留意点	板書事項
導入 3	1 自己紹介を聞く ・自分のこと、勤務校のこと、アメリカの印象など	<ul style="list-style-type: none"> ■氏名の横に、ふりがなをつけて板書する。 ■初めて出会う子どもたちで、また学年も幅があるので、やや下の学年に合わせた親しみやすい雰囲気を作り出す。 	<p>あかおぎあきこ 赤荻 顕子</p> <p>竹早中学校</p>
展開 1 12	2 漢字の成り立ちに興味を持つ (1) 蚊取り線香が提示される	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもから見えないところ（教卓の陰など）から提示し、注目させる。 ■用途、用法を簡単に確認する。 ◇導入として提示する。 	
5	(2) 漢字の「蚊」の成り立ちを確認する 低▽ どうして「蚊」は「虫」偏に旁が「文」なのか	<ul style="list-style-type: none"> ■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。 ■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。 	蚊
	高▽ 「虻」の成り立ちを知る	<ul style="list-style-type: none"> ■「蚊」と「虻」が似たような成り立ちであることに着目させる。 	虻
7	(3) 自分だけの「国字」をつくる 低▽ 漢字はどこから日本へ伝わったのか ▽ 日本でつくられた漢字＝国字 高 ・(例) 凧 ▽ 形が似ている漢字とその意味を考える	<ul style="list-style-type: none"> ■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。 ■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。 ◇ゲーム感覚で取り組めるようにする。 	<p>国字</p> <p>日本でつくられた漢字</p> <p>(例) 凧</p>

	<p>→「風」が「止」まる＝海が穏やかだ＝「なぎ」</p> <p>(4)勤務校中学3年生徒作品（選択国語での実践）を読む</p>	<p>◇ゲーム感覚で取り組めるようにする。</p> <p>■あくまでもことば遊びであり、漢字の獲得数を増やすためであり、漢字に親しむことが大切であることを伝える。</p> <p>■「国字」をつくるためにはできるだけたくさんの漢字を知っている方が、いろいろつくれることを実感させる。</p>	<p>風が 止まる 「風」が「止」 ＝なぎ</p> <p>シンクロ レインコート 漣 霰 サーフィン トランプ 溱 鞞 ジャム コーヒー 黠 蓀 カーテン ゴキブリ 糞 蟻</p>
<p>展 開 II 28</p>	<p>3詩の朗読を工夫して楽しく読む</p> <p>(1)風車が提示される</p> <p>▽どんな感じで回るとよいか</p> <p>・早く、元気よく</p> <p>(2)詩を朗読する</p> <p>まど・みちお作 『かざぐるま』</p> <p>▽作者について</p> <p>・「ぞうさん」の作詞者</p> <p>①範読を聞く</p> <p>②一斉読み</p> <p>③どういう詩か考える</p> <p>▽どう回っているか</p> <p>・ぐるぐる</p> <p>・勢いよく回っている</p> <p>・たくさんの風車が回っている</p>	<p>■子どもから見えないところ（教卓の陰など）から提示し、注目させる。</p> <p>■実際に回してみせる。</p> <p>■教材文を配布する。</p> <p>■1分弱、口々に読む時間をとる。</p> <p>■興味付け程度に紹介する。</p> <p>■あまり偏らず、ゆっくりと声を張って範読する。</p> <p>■声がそろわなかったり、小さかったりしたときは、途中で止めるなど、しっかり音読させる。</p> <p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。</p> <p>■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。</p> <p>■詩を朗読するためのイメージを</p>	<p>かざぐるま まど・みちお</p> <p>まわれ、まわれ、 かざぐる ぐるま。 せかいの まんなかで、 はなに なれ。</p> <p>○どう回っているか</p> <p>・ぐるぐる</p> <p>・勢いよく回っている</p> <p>・たくさんの風車が回っている</p>

▽どんな感じがするか
 ・元気な感じ
 ・応援している感じ
 ・何か大事なもの

④分担して音読し、声の重なりを楽しむ
 a 分担読み
 (男女別グループ)

3

▽男女に分かれて練習する

▽発表する

b 分担読み
 (学年別グループ)

▽(2)③で<まわる><ぐるぐる>に注目したことを再確認する

3

▽学年ごとに分かれて練習する

小5…4名
 小6…4名
 中1…7名
 中2…5名
 中3…4名
 高2…2名

▽発表する

つかませる。

■男女の読み分けの指示が書き込まれた教材文を配布する。

■1分弱、口々に読む時間をとる。

■とりあえず、声に出し、自分の担当部分を確認する。

■場所を移動させる。

■上級生の中でリーダーを決めて、自主的に練習させる。

■人数のアンバランスを意識させないようにする。

(男子17名、女子9名)

■声をそろえる楽しさ、おもしろさを実感させる。

◇一度席に戻す

■(2)③の板書でおさえさせる。

■学年ごとの読み分けの指示が書き込まれた教材文を配布する。

■1分弱、口々に読む時間をとる。

■とりあえず、声に出し、自分の担当部分を確認する。

■場所を移動させる。

■グループごとにリーダーを決めて、自主的に練習させる。

■下級生(小5、小6)を中心にアドバイスをしていく。

■声をそろえる楽しさ、おもしろさを実感させる。

■ことばに注目し、本文に少し手を加えることで詩のイメージが広がる読み方になることを体験し、それを楽しませる。

■空間の中であちこちに飛ぶ楽しさを感じるために、グループごとに立ち位置を好きなのところにさせる。

○どんな感じがするか

・元気な感じ
 ・応援している感じ

		<p>■工夫して読む楽しさ、協力してつくりあげる達成感を味わわせる。</p> <p>◇席に戻す。</p>	
<p>展開 III 7</p> <p>まとめ</p>	<p>4 ことばを学ぶことの大切さを確認する</p> <p>(1) りんごが提示される</p> <p>(2) リンゴを自由に形容する</p> <p>・赤い、甘い、まるい、かたい…</p> <p>(3) 「赤い」に着目する</p> <p>▽ 友達のTシャツの色とどう違うのか</p> <p>・濃い、黒っぽい…</p> <p>(4) 「国語を学ぶ楽しさ大切さ」について書かれた勤務校中学3年生生徒作品（選択国語での実践）を聞く</p> <p>・日本語の響きの美しさ</p> <p>・ことばの成り立ちを知る楽しさ</p> <p>・いろいろな人の気持ちや考え方を知ることができる</p> <p>・ことばを通して世界が広がる</p> <p>→ 読書のすすめ</p> <p>・日本人として誇れるものの一つが日本語</p>	<p>■子どもから見えないところ（教卓の陰など）から提示し、注目させる。</p> <p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。</p> <p>■指名は、できるだけ複数の学年に渡ること。</p> <p>■特に挙手は求めないが、挙手があれば指名する。</p> <p>■ことばを組み合わせていくことで、自分が伝えたい内容に近づいていくこと、友達が伝えたい内容をより詳しく知ることができることを実感させる。</p> <p>■日本語の中で生活している同年代の子どもたちの考えを紹介する。</p> <p>■子どもたちの表情を見ながら、わかりにくい表現については補足を加える。</p> <p>■日本語の少ない環境だからこそできるだけたくさんのことばを持つ努力が必要であることを考えさせる。</p>	<p>りんご</p> <p>赤い、甘い、まるい、</p> <p>↓</p> <p>濃い、黒っぽい</p>

- [評価] (一) 漢字と遊び、楽しく朗読することで国語を学ぶ楽しさを味わえたか。
- (二) ことばを学ぶ意義から日本語を学ぶ意義について確認できたか。